

地域連携の推進に向けた事前アンケートの回答 (島しょ)

東京都保健医療局医療政策部

事前アンケートの回答【設問 1.①】

平日・日中の上りの緊急搬送において、相手先の病院〈島しょの医療機関〉と連携が円滑になされていると思いますか。
(全く思わない) 1～5 (すごく思う)

規模別	平均	主な理由
大島町 八丈町	4.0	【大島医療センター】 広尾病院との連携はスムーズ、他院の場合はヘリ搬送の流れについて説明が必要 【大島町】 平日の日中であれば医師及びスタッフは勤務しており、連携はスムーズに行われている。 【町立八丈病院】 連携は概ね円滑だが、時々相手先の担当医師によって搬送依頼の時点で手こずるケースもあり。近年は少ないが、島で経過をみてと搬送を断られたケース、相手先が別件で取り込み中のため1時間後に再度連絡したが結局受入不可（結局別の病院に搬送依頼）など
新島村 神津島村 三宅村 小笠原村（父島）	4.5	【新島村国民健康保険診療所】 特にこの一年問題は無かった。 【神津島村国民健康保険直営診療所】 診療所医師と広尾病院医師側で、画像転送を含め、病状や検査結果がしっかり情報共有されている。ヘリ搬送含む治療への希望や蘇生への考え方は、患者や患者家族に丁寧に説明し希望の確認をしているはずだが、搬送先で異なっていたことがあった。緊急時の対応という困難さはあるが、さらなる丁寧な説明や確認が重要。 【三宅村国民健康保険直営中央診療所】 平時より広尾病院にご協力いただき円滑に連携が成されている。
利島村 御蔵島村 青ヶ島村 小笠原村（母島）	4.0	【御蔵島村国民健康保険直営御蔵島診療所】 概ね問題なし 【母島診療所】 島しょであることを考慮しての入院日程等の調整、急患搬送の仕組みそのものはスムーズ
広尾病院	3.5	・距離的なものがあり、どうしても受診時間が夜勤帯にかかることがあり、院内の連携（日勤の医師・夜勤の医師と診療科の間）調整に難渋することがある。 ・連携はほぼ円滑にされている。所要時間の短縮が更なる課題

事前アンケートの回答【設問 1.②】

休日・夜間の上りの緊急搬送は相手先の病院〈島しょの医療機関〉と連携が円滑になされていると思いますか。
(全く思わない) 1～5 (すごく思う)

規模別	平均	主な理由
大島町 八丈町	3.7	【大島医療センター】 広尾病院との連携はスムーズ、他院の場合はヘリ搬送の流れについて説明が必要 【大島町】 休日夜間については勤務している医師スタッフ等限られているが、連携は確保されている。 【町立八丈病院】 専門医の処置可能な平日まで島で入院待機を勧められる事がまれにあり。別病院への搬送も考慮されるが、かかりつけや画像共有の点から病院変更も好ましくなく（切迫した状態であればその方針とする）、該当病院に速やかに搬送させて頂き待機とし有事には別病院への搬送のほうが安全かと思う。
新島村 神津島村 三宅村 小笠原村（父島）	4.5	【新島村国民健康保険診療所】 特にこの一年問題は無かった。 【神津島村国民健康保険直営診療所】 平日日中の理由と同様で、連携について平日日中と休日夜間との違いはない。 【三宅村国民健康保険直営中央診療所】 平時より広尾病院にご協力いただき円滑に連携が成されている。
利島村 御蔵島村 青ヶ島村 小笠原村（母島）	4.0	【御蔵島村国民健康保険直営御蔵島診療所】 概ね問題なし 【母島診療所】 やむを得ないが、病院の非常勤医師等が対応の際は急患搬送の仕組みそのものの説明を要する場合あり
広尾病院	3.5	・ 船の時間を考慮した入院時間や事前の情報のやり取りなど円滑にできていると認識。ただ、診療科によってはお受けできないケースがあると認識。 ・ 連携はほぼ円滑にされている。受入側の体制が変動要素になる場合その解消が課題

事前アンケートの回答【設問 1.③】

予定入院において、相手先の病院〈島しょの医療機関〉と連携が円滑になされていると思いますか。
(全く思わない) 1～5 (すごく思う)

規模別	平均	主な理由
大島町 八丈町	4.0	【大島医療センター】 医療連携を通すことでスムーズ 【大島町】 日程を調整する必要があるが、受入れ先病院との連携は円滑に行われている。 【町立八丈病院】 相手先の先生方、医療連携室には概ね快く予定入院を組んでいただいている。先日、医師同士で入院予定を進めたが実際に受診すると入院予定が組まれておらず外来で終了した（入院できないと言われた）ケースあり
新島村 神津島村 三宅村 小笠原村（父島）	4.3	【新島村国民健康保険診療所】 特に問題は起きていないが、新島村側の問題として、医療連携室のようなものがあるともっとスムーズになる。 【神津島村国民健康保険直営診療所】 ほぼ連携はできているが、天候などで交通機関が変更になったときに患者がこちらに連絡せずに予定変更や取りやめにして、相手先病院に迷惑をかけたことが過去にある。交通機関が天候に左右されることは離島ではあることであり、そこも想定した情報共有が必要 【三宅村国民健康保険直営中央診療所】 島の事情を伝えたとうえで配慮いただくケースが多くある。
利島村 御蔵島村 青ヶ島村 小笠原村（母島）	4.3	【御蔵島村国民健康保険直営御蔵島診療所】 概ね問題なし 【母島診療所】 トラブルが生じたことは滅多にない。
広尾病院	4.0	ベッド状況に左右されない受け入れはほぼ出来ている。

事前アンケートの回答【設問 1.④】

島しょの患者が本土の医療機関で急性期治療を終えた後の島しょへの退院（帰島）は、円滑になされていると思いますか
（医療機関や施設、医療だけでなく生活面も含めて）。
（全く思わない） 1～5 （すごく思う）

規模別	平均	主な理由
大島町 八丈町	3.7	【大島医療センター】 医療連携を通すことでスムーズ 【大島町】 困難ケースとしては、身寄りのない高齢者など退院時の付き添いがない場合や、帰島後住環境が劣悪で元に戻れない場合、1人で生活できない場合など、退院（帰島）後の対応を検討するケースも稀にある。 【町立八丈病院】 整形外科治療後、患者が早期帰島を強く希望しているが内地でのリハ継続を推奨され長期の内地入院となったという話を伺っている。治療面ではベストな方針と思うが、当院では入院・通院リハ体制があり活用できるのではと考える。以前はもっと早期に帰島し当院で入院リハをするケースが多かった。
新島村 神津島村 三宅村 小笠原村（父島）	3.0	【新島村国民健康保険診療所】 社会資源が足りないと見ている。 【神津島村国民健康保険直営診療所】 医療機関によって対応の差あり。まったく情報ないまま患者が帰島して情報提供書を読んで知るケースでは、サポート体制もすぐ作れず事態が悪化することがあった。逆に、退院後の生活を電話やオンライン等で繋いで相談してから帰島していただけたケースでは、島の社会資源もお伝えでき、何がどこまでできるかイメージを沸かせて退院いただけて、サポートもスムーズ 【三宅村国民健康保険直営中央診療所】 島内の社会調整に係るスタッフ一同で協力して先方と対応 【小笠原村診療所】 急性期治療後、リハ入院も本土でお願いすることで円滑に帰島できているが、生活面・介護力の問題で帰島が難しいことあり
利島村 御蔵島村 青ヶ島村 小笠原村（母島）	4.0	【御蔵島村国民健康保険直営御蔵島診療所】 概ね問題なし 【母島診療所】 一部の特殊な患者を除き問題ない

事前アンケートの回答【設問 1.④】

島しょの患者が本土の医療機関で急性期治療を終えた後の島しょへの退院（帰島）は、円滑になされていると思いますか
（医療機関や施設、医療だけでなく生活面も含めて）。
（全く思わない） 1 ～ 5 （すごく思う）

規模別	平均	主な理由
広尾病院	2.5	・ 社会資源やマンパワー不足。島から入院時、もとより内地で転院先や療養場所を探してほしいと言われることあり。患者が安心して帰島できるよう、内地でワンクッションできる施設、帰島時の搬送支援など整備が必要 ・ 特に他院転院後の帰島の際に情報共有が不十分

事前アンケートの回答【設問 1.⑤】

本土からの退院（帰島）を促進するには何が必要かお考えがありましたら理由と合わせて具体的にお答えください。
（例：医師や医師以外の職員の充実、施設や情報通信等設備の充実、定期的な勉強会等を通じた相互に相談しやすい関係性の構築など）

規模別	主な回答
大島町 八丈町	【大島医療センター】 高齢者が多いため、ケアマネや地域包括支援センター等の介入を常に考慮してほしい。島の社会資源の内容と限界の理解を。 【大島町】 島の医療の充実 【町立八丈病院】 東京都島しょ地域リハビリテーション検討部会にて内地治療後の早期帰島について協議されているが、④で記載した様に帰島促進とは逆行するケースもある。回りハ算定の関係や、島の設備や体制が内地病院に周知されていない可能性もあり、情報交換・協議の場を設けることができれば良い。また、島での病前の生活状況やADLなど当院からの情報提供がかなり不足（ほぼ無い）し帰島のタイミングや準備などに影響が出ているかと思い、改善を図るべき。当院ではMSWが本来の福祉介護調整等の業務をしながら内地との医療連携を担っており、連携業務が行き届かないことも多いため、医療連携専用の担当者が欲しい。
新島村 神津島村 三宅村 小笠原村（父島）	【新島村国民健康保険診療所】 訪問看護ステーション、理学療法士等需要と供給のバランスが取れていない。 【神津島村国民健康保険直営診療所】 独居や老々夫婦の場合、在宅介護サービスや訪問看護の社会資源の充実がなければ、日常でケアが必要な方の帰島は困難が多い。在宅療養する方のための食事の支度や清潔排泄などのケアをする人材が足りない。在宅介護職員、訪問看護職員の充実が必要。もしくは医療依存度が高い人のための入居施設が必要。また訪問看護ステーションが島でも経営できるような資金の支援も必要。 【三宅村国民健康保険直営中央診療所】 介護サービス（特に居宅サービス）に係る職員の拡充 【小笠原村診療所】 帰島の妨げとなる要因は介護力不足が多い印象。父島では週末の訪問介護が難しく、独居や家族の協力が得られづらい場合はADLがある程度自立するまでは帰島が困難。介護サービスの充実と入院中早期より担当医同士で情報交換すること（どうなれば退院できるなど）が大切

事前アンケートの回答【設問 1.⑤】

本土からの退院（帰島）を促進するには何が必要かお考えがありましたら理由と合わせて具体的にお答えください。
（例：医師や医師以外の職員の充実、施設や情報通信等設備の充実、定期的な勉強会等を通じた相互に相談しやすい関係性の構築など）

規模別	主な回答
利島村 御蔵島村 青ヶ島村 小笠原村（母島）	【利島村診療所】 骨折や脳血管疾患などの急性期加療後はリハ病院を挟んで帰島するケースが多いが、転院先のリハ病院は症例により様々異なり、島しょの事情や特有の生活環境に明るくないことが少なくない。そのため島しょ連携のリハ病院があるとスムーズではないか。 【母島診療所】 ①定期的な勉強会等を通じた関係性の構築 ②入院前後での島しょ部での検査や治療に際しての連携 ③社会的入院、退院転院に際して双方に協力・助力できることはないか、これらに関する定期的な意見交換の場ができるとうい
広尾病院	各島事情が違うため、各島の社会資源や実情の情報共有が必要。また、島しょ患者の生活状況や家族背景等の情報を予定入院でも緊急入院でもスムーズに得られる仕組みや、入院後早期に島の支援者等と情報共有できると、早期退院調整に着手できる（島しょ患者は家族の付き添いがなかったり、本人の病状が悪いとそのような情報が得にくい現状あり）。

事前アンケートの回答【設問 1.⑥】

かかりつけの患者〈島しょの患者〉との間でACPを行っていますか。
（全く行っていない） 1～5 （すごく行っている）

規模別	平均	主な理由
大島町 八丈町	2.0	【大島医療センター】 具体的に行えていない。 【町立八丈病院】 患者および家族との話し合いを可能な限り設けているつもりだが、時間が充分とれない、情報提供が不十分と感じている。
新島村 神津島村 三宅村 小笠原村（父島）	4.0	【新島村国民健康保険診療所】 普段から患者と近い関係を築けている。 【神津島村国民健康保険直営診療所】 昨年度赴任した医師が積極的にACPをとっており翌年もそれが引き継がれているが、まだすべてとはいえない。 【三宅村国民健康保険直営中央診療所】 意識的にやっている。 【小笠原村診療所】 必要と思われる患者に対して外来や入院の際に適宜実施
利島村 御蔵島村 青ヶ島村 小笠原村（母島）	3.0	【利島村診療所】 ACPの対象となる患者の絶対数が少なく概ね行われている。 【御蔵島村国民健康保険直営御蔵島診療所】 機を見計らい実施 【母島診療所】 必要時や体調面が目前に迫った段階での話し合いに限られる。
広尾病院	3.0	島しょの患者は、ACP自体出来ていないケースが多く、島でもACPを実施できる環境を作らないといけないか と感じている。その点について、島のどの方と進めて行けばいいかご教授いただき、当院から勉強会など を行えたらと考えている。

事前アンケートの回答【設問 1.⑦】

ACPを推進するための何らかの取組（ACPに関する情報提供等）を行っていますか。

（全く行っていない） 1～5 （すごく行っている）

規模別	平均	主な理由
大島町 八丈町	1.5	【大島医療センター】 これといって取り組んでいるものはない。 【町立八丈病院】 個々の症例で必要時に担当医が行っているが、推進の取組としては進んでいない。その必要性は熟知しているが日々の診療および各種業務のために取り組む時間が取れないのが最大の理由
新島村 神津島村 三宅村 小笠原村（父島）	2.8	【新島村国民健康保険診療所】 ACPに限っていえば、遠方に住んでいる患者家族が帰省等のタイミングで話す機会を設ける等の取組 【神津島村国民健康保険直営診療所】 ACPに対する情報提供は行っていない。 【三宅村国民健康保険直営中央診療所】 高齢者や生活状況に不安がある方は早めに家族を交えた話し合いを実施 【小笠原村診療所】 個別の対応のみで推進のための取組は行っていない。
利島村 御蔵島村 青ヶ島村 小笠原村（母島）	2.5	【利島村診療所】 離島ゆえ提供できる医療が限定されたり、逆に手厚くできる面もあるため、ACPは必要と思われるが、常勤医師も1年ごとに交代しており、適切なタイミングで行うことが重要と考え、対象となる方に個別に対応。 【御蔵島村国民健康保険直営御蔵島診療所】 必要に応じて家族等へも情報を提供
広尾病院	3.0	院内での勉強会・周知など、進めている状況

事前アンケートの回答【設問2】

その他、地域連携の推進について、御意見がありましたら御自由に御記入下さい。

規模別	主な回答
大島町 八丈町	【大島医療センター】 高齢独居の方が増えて行くにつれ、身寄りがないことが転院の障害になる場合がある。いち医療機関では出来ることに限界があり、対策を講じてほしいと思う時がある。 【大島町】 顔の見える関係が構築出来れば連携という点で発展すると思われるが、現実的には厳しいため、例えば関係する機関が定期的に連携会議を開催し情報共有等に取り組めれば良い。 【町立八丈病院】 内地病院で外来受診後に島への情報提供書が作成されない事が少なからずある（入院治療の場合ではまずない）。内地病院の先生も多忙かと思われるが、遅くなっても構わないので情報を頂きたい。 医療連携の体制は整っていて（救急搬送、入院依頼、コンサルト等）、へき地医療機関としては有り難く、大変恵まれていると感じている。しかし、実際の現場でのやりとりの中で齟齬が生じることが比較的あり、お互いの診療体制や状況が把握できれば更にスムーズになるかと思う。時間帯を合わせての「顔の見える」協議や情報交換を行うのも重要かと思うが、スケジュール調整問題や協議時間の制限もあるので、メールもしくは掲示板の様なweb上での協議もできると、時間をかけながらも建設的に問題解決に近づくのではないかと思う。
新島村 神津島村 三宅村 小笠原村（父島）	【神津島村国民健康保険直営診療所】 入院から退院となるとき、島での生活が可能かどうか、本人や家族の希望だけでなく、診療所、保健センター、地域包括支援センターなどに退院前に相談していただくことは、できる限りしてほしい。島の少ない社会資源の中でのメリットデメリットを本人や家族に伝えることができ、対策を考えたり覚悟を持ていただいたりすることができる。そのような島での治療や療養生活について、連携先の病院と共有できると心強い。
利島村 御蔵島村 青ヶ島村 小笠原村（母島）	【利島村診療所】 大型船による上京、入院加療を依頼する場合に、船の到着時間（東京に夜到着）が入院調整上大きな障壁となる（特に広尾病院以外）。電子カルテの共通化により、他院の検査結果や画像等参照できると良い。

事前アンケートの回答【設問 2】

その他、地域連携の推進について、御意見がありましたら御自由に御記入下さい。

規模別	主な回答
広尾病院	・画像伝送システムの使い勝手、院内の医師の対応、使い方のご提案等、実際に普段使用している島の先生方の率直なご意見を教えてほしい（広尾病院で行った医療機関向けアンケートでもお声をいただいております、現在対応検討中）。 ・内視鏡検査の予約について患者との日程調整が煩雑ではないか、島の先生方の実際の声を聞いてみたい。 ・救患受入等で時おり連携がうまく行かないように感じるケースがあり「どうしたらよかったか（お互いにストレスなく連携がとれるか）」などフィードバックする場があるとよいとの声をアンケートでいただいている。該当する診療科やケースを事務で把握しきれない部分もあるため、「〇〇科との連携を深めたい」とお声をいただければ、その科の責任者やスタッフにこの会議に出席してもらい、意見交換や顔の見える連携を深められるのではないかと。 ・島の医療機関とやり取りをするのは主に電話であるため、電話交換、予約センター、事務職員、その他医療職で、失礼な対応等があれば遠慮なく教えていただきたい。